

「総合的な学習の時間」の考察

— 教科の特性を踏まえて —

It's based on the special quality of the consideration of
“time of the overall learning” -subject, and-.

森 田 清 美

MORITA Kiyomi

キーワード：総合的な学習の時間の指導法・総合的な学習の時間・美術科・健康・環境

I. はじめに

大学・短大の「総合的な学習の時間の指導法」の授業科目担当者は4年間の期限付きであるが『総合的な学習の時間に関する業績がなくても、各教科の指導法の業績があれば、総合的な学習の時間の授業を担当できる』という特例措置があり、筆者も中学・高校の教育現場の経験から短大の「総合的な学習の時間の指導法」の授業科目担当者となった。「総合的な学習の時間」は平成10年学習指導要領で示され、教育課程に位置付けられた。筆者は教科の専門科目は中学・高校では「家庭科」を担当しており、合科的な指導を行った。端的に言えば、「総合的な学習の時間」は時間数の削減された教科に配分され、教科指導内容として取り組んだ。

令和元年度から新中学校学習指導要領¹⁾がスタートした。本学短期大学部では令和元年度より教職課程の変更に伴い、教員の免許状取得のための必修科目「総合的な学習の時間の指導法」が開講された。「総合的な学習の時間の指導法」の全体目標は、「総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現させるために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける」である。

本研究では、開講された「総合的な学習の時間の指導法」の初年度の取組みを報告し、「教科」と「総合的な学習の時間」との関係性を踏まえ、中学校教員をめざす学生への授業展開を検討した。

II. 方法

1. 調査対象・時期

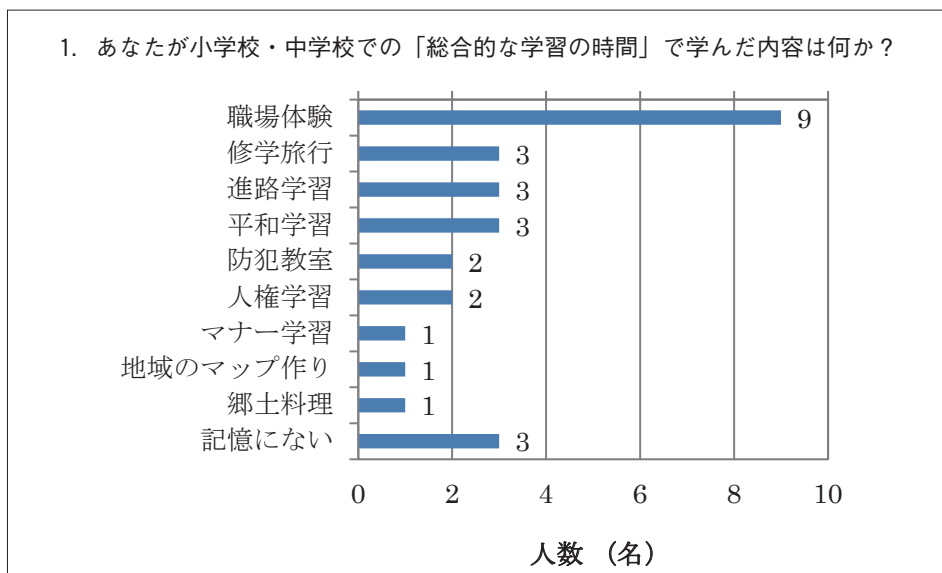
調査対象・時期は、令和元年11月に教職課程の履修者（美術科）1年次生18名を対象に、「総合的な学習の時間の指導法」の最終回に、無記名自記式アンケート調査を行い、調査の趣旨を説明して調査の同意が得られた18名の回答を得た。（有効回収率100%）

2. 調査内容

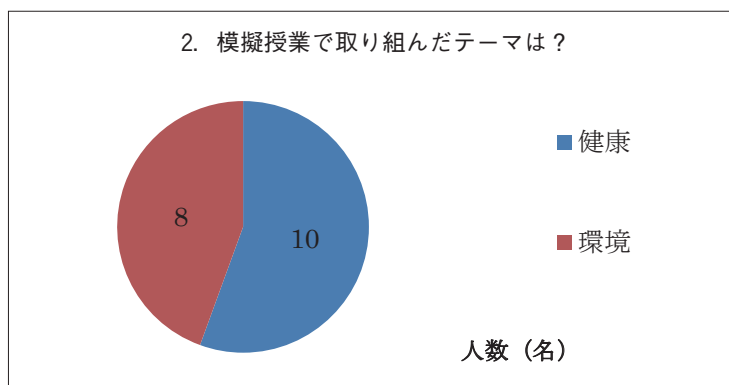
学生が小学校・中学校での「総合的な学習の時間」で学んだ内容は何か、模擬授業で取り組んだテーマ、テーマを選んだ理由、「総合的な学習の時間の指導法」の授業で分ったこと、模擬授業を通じて疑問や発見したこと、美術科の教員が「総合的な学習の時間」を指導する際、有効なことは何かを調査した。

Ⅲ. 結果

1. 学生が小学校・中学校での「総合的な学習の時間」で学んだ内容は、職場体験が9名と多く、次いで修学旅行、進路学習、平和学習が3名、防犯教室や人権学習が2名、さらにマナー学習、地域のマップ作り、郷土料理が1名と続く。また記憶にないと答えた者は3名であった。



2. 「総合的な学習の時間」を捉えやすいように、2つのテーマ「健康」・「環境」を提示し、いずれかを学生に選択させた。模擬授業で選択したテーマは、「健康」を選択した者が10名、「環境」が8名であった。



3. 学生が模擬授業のテーマを選んだ理由（原文通り）

[テーマ：健康を選んだ理由]

- スマートフォンの健康への影響が問題になっている、中学生にとって欠かせないツールだから
- 日常的なことで、成長期の中学生に重要なことだから
- 自分自身が、食と健康に興味を持っているから
- 健康に関するテーマの方が生徒には考えやすいから
- 環境をテーマにすると大きくなりすぎると考えたから
- 健康が人生において最重要だから
- 最近の中学生の生活リズムが問題視されているから

- 自分の経験が活かせるから

[テーマ：環境を選んだ理由]

- 最近、よくプラスチックゴミの問題がニュースなどで取り上げられているから
- 自分の事だけでなく、自然や人類に関わる問題なので
- ゴミ問題、特に分別してゴミを捨てることが出来ない子どもをよく見かけるから
- ゴミ問題は、日々関係し身近なことなので自分が自然環境に興味があるから
- 自分は日本の四季が分からないと思うことがあるので、地球温暖化のことを取り上げたいと思ったから

4. 学生が模擬授業を通じて疑問や発見したこと

表1

先生役（授業を担当）	生徒役
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れを自分のものにし、展開するのが難しい ・今回は同じ学科の学生同志での授業展開だったのでスムーズだったが、これが教育実習だったと思うと不安だ 	<ul style="list-style-type: none"> ・50分は思った以上に短く感じた ・模擬授業をした〇〇さんは自然に話しかけていたので生徒役の方ものびのび意見を発表出来た ・資料をしっかりと提示するとちゃんと生徒役も意見を深めることが出来ると感じた ・時間配分が難しいと思った ・本時のように中学生が取り組みやすいテーマであれば、笑う事の大切さが違う角度から理解できた ・私は人前で話すことが苦手なので、教育実習では話すことを全て書こうと思った

5. 「総合的な学習の時間の指導法」の授業で分ったこと（原文通り）

- テーマ「健康」・「環境」、みんなでキーワードをあげると結構多くあると気付いた
- 中学生に考える材料は身近なものが良く、答えを求めるのではないのが「総合的な学習の時間」ではなく、探求的な見方・考え方を働かせるのが目的だと知った
- 「総合的な学習の時間」は、生徒たちの意見や可能性を広げることが出来る時間だ
- 評価は数字ではなく、グループで課題を解決する資質・能力を育成することが大切だということがわかった

6. 美術科の教員が「総合的な学習の時間」を指導する際、有効なことは何か（原文通り）

- 絵やイラストや画像作成など美術科なら、視覚に訴えることが出来る
- 言葉で伝えるだけでなく、絵や制作物を使うことが出来る
- やわらかい思考が得意なところ
- 大学でデザインや配色の授業を受けているので、分かりやすい資料づくり

IV. 本授業での展開

(1) 授業を始める前に、授業対象が美術科の学生であり授業担当者は他学科であるため、自分の好きなものを名札に描き、自己紹介をし、スタートした。学生は、授業中にこの名札を付ける。



学生が作成した名札

(2) 学生が提示した2つのテーマ「健康」・「環境」からあげた“キーワード”

健康	<p>肥満 健康寿命 生活習慣病 骨密度 ストレス 高齢 体力の低下 視力の低下 スマートフォンの弊害 運動不足 医療費 生活リズム 貧困 食糧自給率 ファストフード 心の健康 朝食を抜く</p>
環境	<p>ゴミ問題 資源ごみの再利用 3R 災害ゴミ 紙ストロー 地球温暖化 海面上昇 大気汚染 生活環境 CO₂ 太陽光 四季がない 食糧自給率 住宅問題 食糧廃棄</p>

図1. 学生が2つのテーマからあげた“キーワード”

(3) 模擬授業

—学生による模擬授業 [学習指導案]— 【抜粋】

- 1, 日 時：令和元年 11 月 30 日（土）第 2 校時
- 2, 場 所：〇〇教室
- 3, 学年・学級：第 1 学年 3 組（男子 10 名, 女子 15 名 計 25 名）
- 4, 単 元 名：「笑い」の大切さを考えよう
- 5, 指 導 者：〇〇〇〇

- (1) 単元名 「笑い」の大切さを考えよう
- (2) 本時の展開
 本時の目標
 ・笑うことの大切さを考えることができる。
- (3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	育成しようとする資質・能力（評価方法）
導入 (5分)	・本時の目標を確認する	本時の目標：「笑う」の大切さを考えよう	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・班で笑いに関する知識やエピソードを共有する <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">集団思考</div> この際に出た意見をワークシートにメモしておく ・クラス内で共有する （各項目で発表者を変え、みんなが意見を言えるようにする） ・<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料</div>*や口頭で事例を紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで全員が意見を発表する順番や役割を決めさせる ○各項目で発表者を変えてみんなが意見を言えるようにする ○生徒が興味をもてるよう工夫する（お笑い番組などのビデオを見せる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力 ・発言できる力
まとめ (5分)	・ふりかえりをする	○自分の生活と関連づけて考える	

資料

* “笑いの効果”²⁾

よく考えてみれば、不思議なことですが、地球上で「笑うこと」ができるのは人間だけで、笑うことは人間の長い進化の過程の中で、生きていくために欠かせないものとして生まれ、引き継がれてきました。

一般的に4歳の子供は、1日300～500回ほど笑いますが、大人になるとその数は10～15回に激減します。筑波大学の村上さんと吉本興業が組んで行った実験によれば、19人の糖尿病患者に500カロリーの寿司を食べてもらい、その後、大阪の有名な漫才師の公演を聴いて、大爆笑してもらった後、血糖値を測ってみると、漫才を見る前は、平均上昇率が123mg/dlだったものが、漫

才を見た後では、77mg/dlまで大幅に下がり、別の「なんばグランド花月」で行われた実験でも、3時間大いに笑った後、血液成分を調べたところ、体に悪影響を及ぼす物質を退治してくれるナチュラルキラー細胞の働きが活発化していました。この実験以外にも、1日15分笑うと40カロリーを消費するため、これを続けると1年で2キロの脂肪が減り、30分のお笑いビデオも腹筋運動12回に相当するなど、笑いにはエクササイズの効果も少なからずあるようです。また、ストレスが溜まると、脳が興奮し、酸素を消費するため、脳細胞への酸素供給量が不足し、脳の働きが低下してしましますが、笑うことによって、体中に酸素が大量に入り、新鮮な血液が脳へどんどん送られるため、笑った後は、集中しやすく記憶力もアップするとも言われています。オリンピックで9個のメダルを獲得しているカール・ルイスは100m走の時、70mを過ぎた地点でニコッと笑顔を作ると良い記録が出ると述べています。人間の体は使えば発達し、使わなければ退化するという法則があり、笑わない生活を続けていると本当に笑えない顔になってしまうため、感情を抑えることは体に一番悪く、「笑えない生活」が続くと免疫力が低下するため、ガンなどにかかりやすい体になってしまいます。楽しい笑いは、乱れた体の機能を正常に戻す役割を果たし、薬と違うところは、基準値以上の働きをすることがないため、副作用が一切ないことですが、医師の松本光正さんも「笑い」について次のように述べています。「1回の笑いで癌細胞が100個も消滅する。100回笑うと100×100で1万。そうすると1日に生まれる癌細胞がみんな消えることになる。」(子供の頃は1日300～500回笑っていたのだから、1日100回笑うというのは大した数ではない。)

また、病院に訪問し笑いを届ける「ホスピタルクラウン」という活動もあります。



ホスピタルクラウンの活動の様子³⁾ 出典

IV. 考察

学生自身が、小学校や中学校での受けた「総合的な学習の時間」は、平成20年改定において、「探究的な学習を通して」という文語が入ったことにより、教育現場ではキャリア教育の職場体験や修学旅行の事前・事後等に転用されることが多いという実態がある。その後、平成29年度学習指導要領改訂では、目標として「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行なうことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」という三項目を示している。次表に教科の特性を踏まえた『育成をめざす資質・能力』を示す。

【知識及び技能】	○知識 ○技能
【思考力・判断力・表現力等】	○課題解決能力 ○表現力
【学びに向かう力・人間性】	○主体性 ○協調性 ○公共心

筆者作成

学生たちが学習指導案を考える際に、一番に戸惑うのが単元の捉え方である。教科書がない「総合的な学習の時間」では顕著である。「単元は教材の有機的なまとまり」と言うとさらに混乱する。そこで、子どもの遊びと手の労働研究会⁴⁾が提唱している「単元は『ストーリー』である」を取り入れた。学生に“ストーリーは2つのタイプ、主人公が中心のストーリーと出来事が中心のストーリーで考えてみよう”と話すと「これは、面白い…」となった。本授業は集中講義での指導であり時間的制約がある。そのため学習指導案の作成後の添削などを考慮して、2つのテーマ「健康」・「環境」を提示した。まず、最初にテーマ「健康」・「環境」に関するキーワードを学生にあげさせた。学生全員が発表したことで、個々では気づかなかった視点を持ち、模擬授業の単元設定がスムーズに出来た。学生が選択したテーマは「健康」10名、「環境」8名である。「健康」を選んだ学生は“学習対象者が成長期の中学生であり、また自分の経験を取り上げることができる、「環境」をテーマにすると中学生には考えにくい”という理由をあげている。「環境」を選んだ学生は“日々の生活で取り上げやすく中学生にもゴミ問題は考えやすい”という理由をあげている。これは半年後(2年次)には教育実習に行き、中学生の指導にあたるという視点を持っているからだ。

学生は学習指導案の作成方法を学修し、作成した学習指導案の添削を受け、教材を作成後、模擬授業の準備をした。残念ながら、時間的な制約のため代表して1名の学生が模擬授業を行った。他の学生は生徒役をした。模擬授業の一つ単元名：『「笑う」の大切さを考えよう』は、**資料**：“笑いの効果”を使い、笑いに関する知識やエピソードを共有し「笑う」ことの大切さを考えるという授業展開であった。模擬授業後、先生役の学生は“今回は同じ学科の学生同志での授業展開だったので、スムーズだったがこれが教育実習だったと思うと不安だ”と述べている。生徒役の学生は“資料をしっかりと提示するとちゃんと生徒も意見を深めることが出来る”“時間配分が難しいと思った”“今回のように中学生が取り組みやすいテーマであれば、笑う事の大切さが違う角度から理解できた”と述べている。

また「総合的な学習の時間の指導法」の授業で分ったこととして“答えを求める探求的な見方・考え方を働かせる”“生徒たちの意見や可能性を広げることが出来る時間だ”と捉える事が出来ている。「総合的な学習の時間」は、キャリア教育の職場体験や修学旅行の事前・事後の取組みの経験が主であった学生にとり、不確かであった本科目の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行なうことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」が、模擬授業を通じて理解できた。

本授業の履修者は中学校教諭二種免許状(美術)取得を目指す学生であり、名札にイラストで描くことも短時間で楽しんで作成した。美術科の教員の特性として“絵やイラストや画像作成など美術科なら、視覚に訴えることが出来る”“言葉で伝えるだけでなく、絵や制作物を使うことが出来る”“やわらかい思考が得意なところ”“大学でデザインや配色の授業を受けているので、分かりやすい資料づくり”をあげている。水口⁵⁾は「総合的な学習の時間」の創設は、問題解決型の学習の模索の一端である。しかしながら「総合的な学習の時間」の指導は、モデルを示さないまま現場に任された創意工夫の義務付けで成り立っている現状では、教科との融合で生徒の考える力を育成する「総合的な学習の時間」の持つ意味は大きい”と述べている。本授業を通して、学生は教科の特性を「総合的な学習の時間」の指導に活かせることを認識した。

V. まとめ

令和元年度開講された「総合的な学習の時間の指導法」の取組みを「教科」と「総合的な学習の時間」との関係を踏まえ、中学校教員をめざす学生への授業展開を報告した。本授業では教職課程に学ん

でいる学生が、「総合的な学習の時間」の目指す目標を理解し、教科担任制の中学校では専門教科の特性を活かせる視点を持たせることができた。

終わりにあたり、アンケートにご協力くださいました皆様に深謝申し上げます。

VI. 文 献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導案要領解説（総説） pp. 159 - 160（2019），東洋館出版社
- 2) <http://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/warai-kenko/waraitokenko.html>
- 3) hospitl-Clownm, jp
- 4) 子どもの遊びと手の労働研究会：総合的な学習の指導法—Making of 総合的学習 pp. 66 - 88（2018），一藝社
- 5) 水口洋：総合的な学習の時間の行方 pp. 35 - 45（2015），国際基督教大学紀要